

日工販ニュース Vol.4—2013



年 頭 所 感	日本工作機械販売協会 会長 上田 良樹	2
	経済産業省製造産業局 産業機械課長 須藤 治	4
	一般社団法人日本工作機械工業会 会長 横山 元彦	6
話 題 の 技 術	「新製品 ターニング&フェーシングヘッドタイプ マシニングセンター ORBITEC 20」 ヤマザキマザック(株) 山岡 義典	8
リ レ ー 随 筆	大昭和精機(株) 武長 久門	11
私 の 読 書 評	「中国人による中国人大批判」 (株)豊通マシナリー 上田 泰三	12
工 作 機 械 と 私	伊吹産業(株) 島田 季明	13
営 業 マ ン 日 記	「名刺・電話・印鑑・切手の話題」 さかい三十郎	14
議 事 録	「理事会」「調査広報」「『提案営業力&技術提案力』向上研修会」 「東部講演会・忘年懇親会」「中部工場見学会」「中部講演会・忘年懇親会」 「西部懇親ゴルフ大会」「西部講演会・忘年懇親会」	16
S E 教 育	「平成24年度 更新研修実施報告」「合格者」	25
統 計 資 料	「FA流通動態調査 1」「マシニングセンタ・NC旋盤動向」 「工作機械業種別受注額」	28
甘 口 辛 口	「大震災に思う日本の底力」 (株)共和工機 増田 博巳	31
消 息 ・ 行 事		32
会 員 会 社		33

SE資格者にご回覧下さるようお願いいたします。

平成25年 年頭所感



日本工作機械販売協会 会長

上田良樹

皆様 新年明けましておめでとうございます。

健やかに新春を迎えられたことと存じます。旧年中は当協会に対し一方ならぬご厚情とご支援を賜りありがとうございました。あらためて御礼を申し上げますと共に、本年も引き続き宜しくお願い申し上げます。

さて、円高、経済のグローバル化が一層進展する中で、欧州債務危機問題は依然出口が見えず、世界最大市場であった中国経済も急激に減速するなど、我々を取り巻く環境は目まぐるしく変化し先行き不透明な状況が続いています。斯様な状況下、昨年日本工作機械受注額は、グローバルベースで拡大する需要をしっかりと取り込み、日工会殿が年初に設定された目標額の1兆2千億円を達成された模様です。日本の工作機械に対する世界市場からの厚い信頼と高い技術先進性を再認識した次第であります。

今、日本のものづくりは歴史的な転換点に立っていますが、その一翼を担う我々商社として今後どのように対処していくべきか、新年にあたり私の考えを述べさせていただきます。

1. グローバル化のさらなる加速・拡大

国内設備投資はリーマンショック以降、東日本大震災もあり減少を続けて参りましたが、その間先送りされてきた投資が実行されたこともあって、昨年は5年ぶりの増加に転じました。しかし、中身を見ると設備更新、老朽化対応、合理化、省力化等足場固めの投資が上昇する一方、能力増強のための投資は低下しており、日本経済の活性化につながるには言い難い内容になっています。一方、海外設備投資は昨年も大幅に増加しており、自動車等を中心に生産の海外シフトが一層加速されています。真のグローバル化に向けた連結視点でのものづくりの段階に入ったと考えます。我々商社としても、ボーダレスなグローバル視点に立って客先動向、市場を注視し、機動的に対処してゆくことが益々必要となっています。

2. 日本のものづくりの復権

日本市場は縮小していますが、それをはるかに上回るスピードで新興国市場は急拡大しています。すなわ

ら、世界全体では市場は拡大しており、エネルギー、資源に対する需要が一層増大しているため、その不足、枯渇が問題となっています。結果、今後益々「省エネ・高効率」製品のニーズが拡大していくものと思われます。また、生産コストを下げるために労働賃金の低い新興国での生産が進めて来られましたが、昨今の中国、インドネシア等にもみられるように賃金は急速に上昇し始めており、早晚グローバルベースで所得は平準化していくものと思われます。ものづくりにおける賃金メリットは低下し、労働集約型のものづくりから、品質安定・再現性も図れる「装置産業型のものづくり」に移行していくものと思われます。機械品質についても、新興国市場等向けに汎用機が開発される一方で、次世代を担う先端技術を具現化するための「ハイエンド機」のニーズも高まっていくものと思います。機械に対する要求品質の2極化が益々進んでいくものと思われます。

このように日本が強みを発揮できる新たなニーズが出てきており、日本の工作機械は引き続き高い成長ポテンシャルを保持していけるものと考えます。我々商社としても、日工会殿をはじめメーカー各社様と連携を密にして、日本の強みをより強いものにするために尽力していくべきと考えます。

3. バリューチェーンでの進化作業

日本のものづくりは、お客様-商社-機械メーカー様が三位一体となり進めて参りました。最終目標を共有し、それぞれの持ち場で機能を分担し、全体最適を図りながら一体となってものづくりを具現化して来ました。これこそが日本の強みであると考えます。今でこそ自前主義を排し、パートナーリング、アライアンスによる展開を図っているなどと言われていますが、日本のものづくり現場では古くからこの方式を実践して来ました。今後市場のニーズが益々多様化、複雑化し、それを迅速に実現していくことが要求される状況下、バリューチェーン一体でものづくりを進めてきた日本方式が優位であると考えます。ものづくりの前線がグローバルに拡大し続けている状況下、我々商社に期待される機能は川上、川下双方向に向かって拡大しております。日本のものづくりバリューチェーンの構成員として、お客様、機械メーカー様と共に、拡大するビジネスチャンスをしっかり取り込んでいくことが、日本のものづくりの進化、発展につながっていくものと考えます。

ものづくりは日本という国の根幹を支える重要な産業であります。上述のように市場の潮目は大きく変わりつつあり、日本のものづくりがさらに飛躍するチャンスが目の前に広がっています。我々一人一人が世界の中での日本という視点をしっかりと持ち、海外の成長を取込んでいくことが日本の発展につながっていくものと考えます。

我々商社としても、プロアクティブに機能を提供していくことが期待されています。日工会殿をはじめメーカー各社様との連携を密にし、広範なネットワーク、情報力を発揮しながら日本のものづくりの進化、発展に寄与して参りたいと思います。日工販と致しましては様々な打ち手を施して参る所存ですので、本年も引き続きご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

最後となりますが、皆様の益々のご多幸とご健勝を祈念申し上げて私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



経済産業省製造産業局 産業機械課長

須藤 治

平成25年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

さて、世界経済は、引き続き欧州政府債務危機やアメリカの「財政の崖」といった景気の下振れリスクを抱えつつ、以前より懸念されていた中国景気が目に見えて成長テンポを鈍化させているという予断を許さぬ状況で新年を迎えました。また、昨年、中国における反日デモが、日本の産業機械メーカーの中国ビジネスにも少なからぬ影響を与え、中国ビジネスの難しさについて改めて考えさせられる機会となりました。

このように不安定な時こそ、短期の景気認識を超えた、中長期の時代認識に立った骨太の取組を、我々は進めていかなければならないと思います。

先進国の少子高齢化が進む一方で、途上国は人口が増加しており、世界人口は70億人を突破し増加を続けています。中国、ASEAN、インドは、テンポが緩まっているとは言え引き続き数%台の成長率を続けており、こういった新興国におけるインフラ開発、都市開発、資源・食料への需要増が世界経済を牽引することは間違いありません。また、エネルギーでは、需要面では新興国を中心にエネルギー消費が増加し、供給面では非在来型天然ガス開発だけでなく豪州等における在来型天然ガスの開発が進められており、天然ガスが石炭と並ぶ主要な一次エネルギーの地位を占めていくでしょう。

経済産業省は、この数年、「世界経済の成長を日本の成長に取り込む」ということで、戦略分野を策定して、その促進に取り組んでまいりましたが、上述の世界の中長期的構造変化を踏まえて、これまで以上に、関連産業の振興を強力に進めたいと思います。

一方、国内に目を転じますと、人口減少と経済成長鈍化による国内市場の縮小、高齢化や労働力人口の減少、エネルギー供給不安、製造業における新興国企業との競争激化といった諸課題に囲まれております。こういった課題を解決しながら新しいビジネスを創出しようというのが、今後も変わらぬ経済産業省の基本方針だと考えています。

産業機械課は、昨年11月、厚労省と連名で「ロボット技術の介護分野における重点分野」を策定・発表しました。今や団塊の世代が65歳以上となり、今後10年間で日本の総人口に占める高齢者の割合は30%に達します。介護を巡る様々な課題に対して有効な手段を講じていくことが急務となっており、課題解決の一端をロボット技術が担っていきたいと考えております。

製造業の国内維持も、引き続き我々の重要な課題と認識しています。昨年は平成23年度補正予算による国内立地補助金を措置しました。今後に向けても、法人税引き下げや研究開発減税といった税制改正要望を行っておりますが、企業が恒久的に工場や研究拠点を立地先として日本を選択してくれるような国内立地環境について、広い視点から考えていきたいと思っております。

産業機械課は、これからも、皆さんの生の声を聞き、それを産業政策に反映させていきたいと思っておりますので、良いアイデアやお困り事があったら、気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

年 頭 所 感



一般社団法人日本工作機械工業会 会長

横 山 元 彦

平成25年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の工作機械業界は、超円高の逆風にもかかわらず、堅調な海外需要を背景に、月次で概ね1千億円台の受注水準を維持することができました。この結果、2012年の工作機械受注額は、当初の見通し通り、1兆2千億円程度に達したものと見込まれます。

本年の工作機械受注動向につきましては、世界経済減速の余波を受けて、予断を許さない状況にありますが、エネルギー開発、インフラ投資、新興国での自動車投資、新型航空機や医療関連等の成長産業の台頭など、工作機械需要の背景には、大いに期待すべきものがあります。

この大きな潜在需要を実需とするには、複合化や難削材・新素材加工への対応など、日本が得意とする技術にさらに磨きをかける一方、欧州が先行するソフトウェア分野において、自らの弱点を良く分析し、効率的な研究開発に取り組むことが重要です。

また、マーケティング面では、機械単体のみの営業から、ユーザーが必要とする生産技術の提案にまで踏み込んだ、総合的ソリューションを通じた新たな価値づくりを目指すとともに、日本が誇る優れたサービス力のブラッシュアップが求められます。これらの諸課題に対し、業界各社が努力を惜しまず、競合国との差別化を一層明確にすることで、本年は、昨年の「1兆2千億円程度」の水準を上回る受注額を目指していきたいと存じます。

併せて、本年は、中長期的な視点から、「産官学連携による研究開発の推進と有為な人材の確保・育成」、「JIMTOFの求心力強化」、「標準化戦略の強化」など、当工業会が昨年5月に取りまとめた、「工作機械産業ビジョン2020」で示された諸課題への対応に注力して参ります。

他方、製造業全体を俯瞰致しますと、その根幹である設備年齢が、近年とみに上昇していることが大きな問題となっております。日本の製造業の国際競争力を維持するためには、設備の若返りを図り、生産性の維持・向上に努めることが喫緊の課題であります。当業界では、常に最新鋭かつ最高の工作機械を供給し、日本経済の根幹である製造業の再生を支援しつつ、世界のものづくり産業の繁栄に貢献して参る所存です。

本年も関係各位には、ご指導、ご鞭撻とさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、平成25年が皆様にとってさらなる飛躍の年になることを祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

分かりやすい話題の技術

Inteligible Recent Technics ★

No.130

新製品 ターニング&フェーシングヘッドタイプ マシニングセンター ORBITEC 20



ヤマザキマザック(株)
大口プロダクト プロダクトマネージャー

山岡 義典

日本の製造業を取り巻く厳しい環境に対し、当社は、加工機能の複合化によって工程集約を高め生産性を向上する工作機械を提供してきた。今回新たにターニング&フェーシングヘッドタイプ マシニングセンターとして大型・異型部品の旋削加工の生産性を向上するORBITEC 20 (オービテック20) (図1)を開発し販売を開始した。



図1. Orbitec20の外観

本機の特徴をバルブ（図2）加工を例に紹介する。バルブはオイル・水などの流量を制御する調整弁として、ゲート方式やボール方式等がある。このバルブ加工は主に締結面の端面加工・流量を制御するゲートやボールが配置される内部の内径加工・他部品との締結用穴部の穴加工からなる。締結面は、連結した際の流体の微少な漏れを防ぐために、フライスによるミーリングよりも旋削による加工面が要求される。また多くのバルブは三方向の加工面があり、様々なサイズ（加工径）がある。また内径加工ではテーパ加工や溝加工があり、さらに締結ボルト用の様々な穴加工ができることが求められる。

これらの要求に対し、ORBITEC 20ではワークをテーブルに固定し、U軸V軸およびZ軸によって位置決めを行い旋削工具を回転して加工する（図3）。旋削径を制御するために、C軸内にもう1軸（X軸）を設けこの軸上に旋削工具を配置している（図4）。このX軸は、回転するC軸がアンバランスにより振動を生じることなく、また限られたスペースに内包する必要があるため、一般に用いられる直線移動の方式ではなく回転方式としている。その際加工径が変化しても常に刃先がC軸回転中心方向を向くよう回転軸内部の

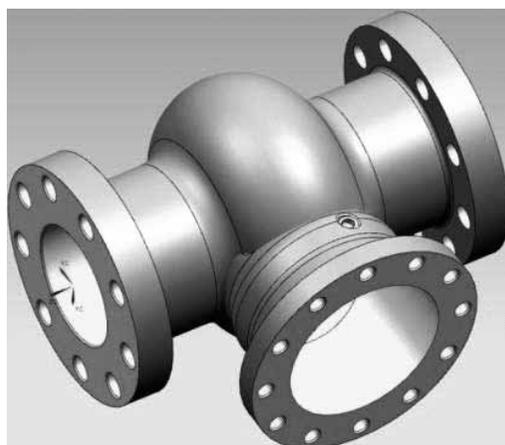


図2. バルブ イメージ図

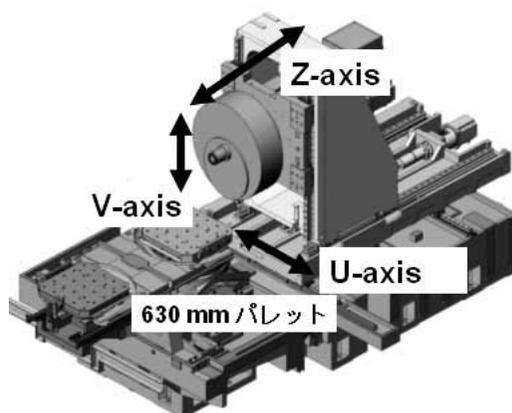


図3. Orbitec20の軸構成

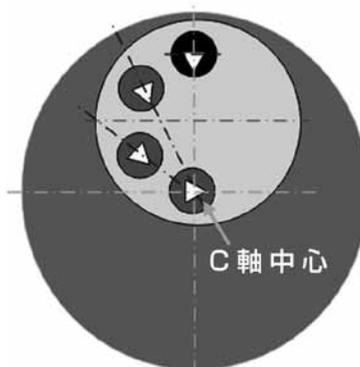
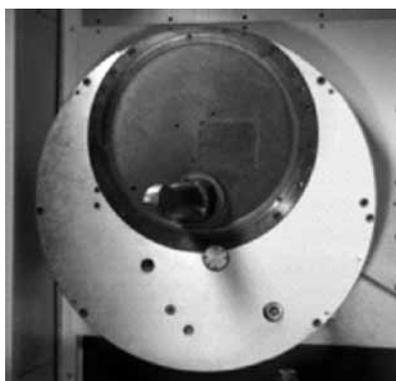


図4. X軸外観とX軸の動作図

機構を工夫して様々な加工径の旋削加工に対応する。X軸のストロークは280mmあり、用いる工具にもよるがフランジや内径加工ではφ670mm、外径加工ではφ450mmまで加工が可能である(図5)。さらに工具がC軸中心に位置決めできるので、C軸の回転によって最高600min⁻¹で穴加工ができる。工具インターフェイスは旋削加工に定評のあるCAPTO C8を採用し、ATC機能を備える。

テーブルは横形マシニングセンタのテーブルを使用しNCロータリー仕様が標準である。これにより多くのバルブ部品に必要な三方向の加工が、テーブルの位置割り出しによって加工可能となる。

パレットサイズは□630mmであるが、より大きなバルブに対応するため□800mmをオプション設定とし、さらにパレットチェンジ機構を備えて加工中の段取りを可能にしている。

このテーブルのパレットクランプ機構は当社横形マシニングセンタHCNシリーズと同一なので、当社モジュラーテックシステムを用いて複数台のORBITEC 20や横形マシニングセンタHCN6800と連結することができ、機械間のパレット渡り歩きにより生産量や加工種類に応じた柔軟な生産システムを構築することができる(図6)。

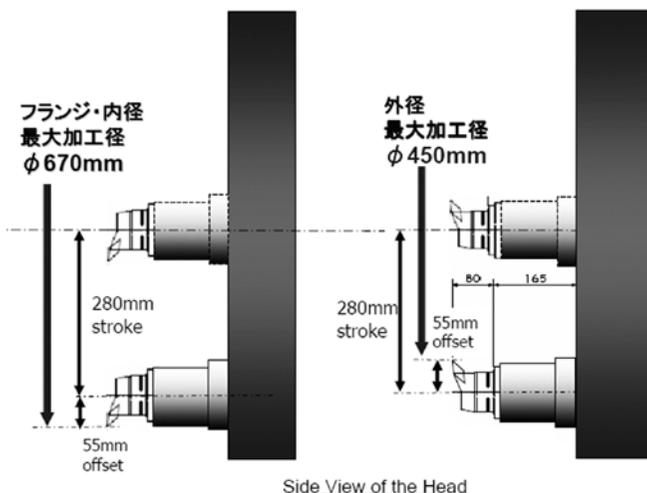


図5. 加工可能サイズ

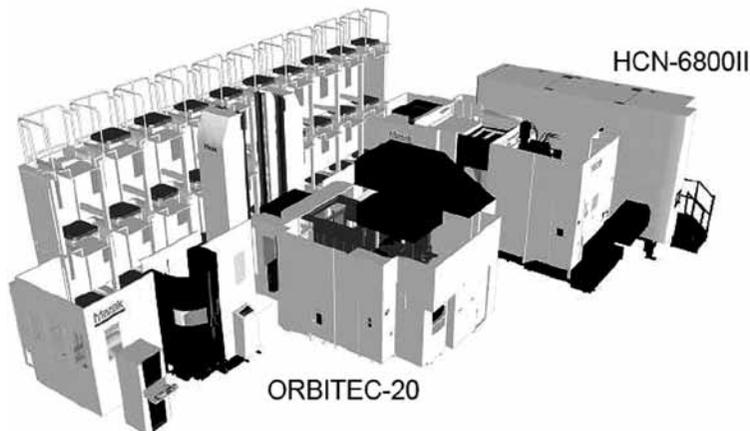


図6. FMS構築例

以上の通り、本機はバルブに限らず旋削用に回転させることが難しい異形部品を高効率に加工できる工作機械である。今後、より汎用性を高めるためミル機能の充実やより広範な旋削加工に対応できるようオプションの充実を進める予定である。



リレー随筆



大昭和精機(株)
海外営業本部アジア課統括マネージャー
武 長 久 門

皆様初めまして、大昭和精機株式会社海外営業本部アジア課統括マネージャーの武長久門と申します。この度はNTツール高木様のご紹介により、本書へ寄稿させて頂く事になりました。

各メーカーの皆様方の中でタイメタレックス、インドネシアの展示会にご参加された方も多いと思います。お疲れ様でした。小職もその一人で、JIMTOF 終了後直ぐに、台中のTMTOS、メタレックス、マニユファクチャリングインドネシアと続けて参加致しました。今回はこの道中にて感じた点を話させて頂きます。

この11月、12月のアジアで行われた展示会を見る中で、小職自身は台湾メーカーの脅威を非常に感じました。常日頃各国のお客様を営業訪問している際にはあまり脅威に感じる事はないのですが、各業種多岐に渡り、それぞれ複数のメーカーがあるメーカー数の多さ、またその価格帯の安さを目の当たりにし、小職の目には非常に大きな脅威として映りました。

品質面に関しては、各台湾メーカーでのバラつきはございますが、トップメーカーの製品となると機械、工具、治具、機器等は“所詮は台湾製でしかない…”という色眼鏡を外して見ると決して侮って良いレベルの製品ではありませんでした。オリジナル性という点においては、まだまだ見受ける製品はありませんでしたが、その代わり各業種の日本製メーカーの良い所、トレンドを良く研究し、それを組み合わせる模倣という面においては、その模倣のレベルと基準に驚かされました。真剣に台湾メーカーの製品を見てみると、それなりにどのような着眼点を持って模倣しているかが分かるような気がしました。日本メーカーのどの製品が良くて市場で受けている、逆にどの製品はあまり良くないので模倣する必要は無いという、各日本のトップメーカーの製品の中から選りすぐった部分を全て自社製品の中に組み入れている事が伺えました。もちろん、見た目と実加工における精度は当然の事ながら違いますが、それでも設計面での大きな差は無いように思えてきてなりません。

常日頃は小職自身も同業種の他社メーカー様と時には勝ち、時には負けの競合をし、切磋琢磨させて頂いておりますが、広く業界自体の事を考えた際、私達日系メーカーもお互いが切磋琢磨しながら時には目に見えない協力をしながらも、その先にあるメイドインジャパン対海外メーカーの競合を見据えた上での活動を行っていかないと、最終的には私達自身の業界が大きな影響を受ける事になるだろうと、改めて強く感じさせられました。

約1か月ぶりに日本に帰ってきましたが、常日頃からアジアの気候に順応しきっている体のため、とにかく寒くて、寒くて凍えるような思いです、そして帰国後1日目にして風邪をひいてしまいました。これから年末、年始にかけて日本へご帰国される方々も多いと思います。くれぐれも、日本の寒さへの対策をお忘れなく!!

本文作成中、12月半ばでございますが会社人としてだけでなく、一個人としても多くの皆様方から多大なるご支援・ご厚意を賜る事ができた1年でした。皆様方1年間お付き合い下さり誠にありがとうございました、2013年も引き続き宜しくお願い致します。

「中国人による中国人大批判」

金 文学著 (祥伝社)



(株)豊通マシナリー
産業機械部産業機械グループ

上 田 泰 三

尖閣諸島問題に揺れる日中両国の関係。立ち寄った書店で目に留まったのが今回紹介させていただく「中国人による中国人大批判」でした。日本の大学で教鞭をとる著者が明らかにする、我々があまりに無知な過去の日本や著者の母国、中国のこと。それらを我々日本人もまた知ること、別れることが出来ないパートナーとの本当に目指すべき姿や付き合い方が見えて来ます。単なる批判の為ではなく、相互理解を目的として読むことで、両目で物事が見られるようになる、そんな一冊です。

1987年、私は台湾に留学し、一学生として、寮での共同生活を送り始めました。当時から台湾は親日的と言われていましたが、これは我々の思い込みで、当時、国民党政府は反日教育を行っていました。政府の教育をまじめに受け止めていたトップエリートの間では、のんびりとした世間一般とは異なる日本観を持っており、一部同級生の心の中には戦争加害者・日本人という意識があることも時折垣間見られました。ましてや主戦場となった中国大陆ではなおさらだと思います。例えば祖父が戦時の犠牲になったせいで、以来一家は落ちぶれて…など、間接被害が容易に推測されます。故に、公平な理解者であろうとすれば、自ずと自国の主張には消極的になります。日本の外交も同様の傾向にあった訳ですが、弱者だった中国を擁護し、過分な要求を大人として受入れ続けた結果、近年の中国を見る限り、彼らは常識はずれなまま大人になってしまった感が否めません。尊重し合う大人な関係はこのままでは期待出来ません。著者曰く、日本の過剰な自己批判は全く不要で、むしろ近代中国を興した孫文や毛沢東ら中国の革命家を助けた人的な交流が今に繋がったこと、日本が中国東北部に多大なる国費を投じて重工業を移植したことが中国再興の礎となったことなど、むしろ誇りを持つべきだと言います。中国人はそんなことも知らぬまま、「小日本人」と小馬鹿にし、被害者ぶって自らを危うくしていると警鐘を鳴らしています。

我々ビジネスパーソンにとって、中国は今後も大切なパートナーです。それ故、考えが一致することを期待するのではなく、それぞれの価値観に違いがあることを認め合い、尊重しつつ、並び立つことを目指すべきだと、私は考えます。相手は「駄目元で言ってみる」文化です。国際法も、我々が世界の常識だと思っていることも、約束ごとすらも覆して「言ってみる」文化です。蔑むことなく、その都度判断し、駄目なものは駄目と言い、歓迎すべき変化なら、受入れれば良いのです。他者との違いを認め、如何なる変化にも柔軟に対応できる「スマートな日本人」を目指したいと、この本を読んで改めて思う次第です。

工作機械と私



伊吹産業(株)
統括2部第1グループ部長

島田 季明

新年明けましておめでとうございます。

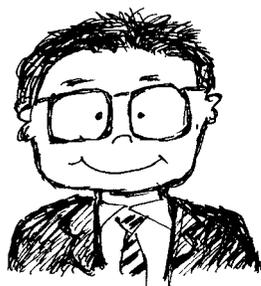
おかげさまで昨年弊社は50周年を迎えました。ひとえに皆様のあたたかい御支援のお蔭だと思えます。これからも伊吹産業どうぞよろしくお願ひします。

さて、そのうちの30年が私の歴史と重なっていることは感慨深いものがあります。30年前に入社したものの卒業ができず、社長に「もう学校、やめますわ。」と言うと、「どうせ1年そこら修行するんやから、先輩の営業について回って、時間になったらそこから学校へ通え。」学校は夜学だったので、午後5時頃最寄の駅から京都まで週2回通いました。最終の試験前は1週間の休みまでもらい、中ノ島の図書館でテスト勉強させていただきました。その甲斐あって無事卒業でき、親よりも先に卒業証書を社長にお見せしたのがつい昨日のように思えます。しかし正式入社したものの、機械や電気など全然関係の無い私大の文系の出身の私には油の臭いにも馴れず、毎日上司のチェック攻めに遭い、2階の事務所から3階の寮に往復する毎日でした。この頃毎日辞めることばかり考えていたんじゃないかと思ひます。でも結局辞めずにここまで来れたのは、上司や仲間の助けもありましたが、最終的には自分が辞めて、お客さんに迷惑をかけたくないという気持ちだけだったと思ひます。

入社当時のことは以上にしまして、最近の状況を報告させていただきます。

御存じのように、弊社はコマツの代理店ということもあり、工作機械より鍛圧・板金機械の販売ウェイトが高く、一時は年間コマツプレスの販売台数が1年で450台という時もありました。しかしプレスを使った大量生産方式は、次第にタイを始めとする東南アジア・中国へとシフトされ、国内の仕事はかつての半分、工賃も半分といった状態になってしまいました。特にリーマンショック以後、弊社の販売中心は中古機械となっていきました。中古機械は新品の機械に比べライバルも少なく、ある時は優良ユーザーを簡単に開拓できる大きな利点もあります。しかしその反面その機械に問題があれば簡単に信用も失う欠点もあります。その為下取った機械を十分に整備し、十分お客様に説明して商売しなければなりません。この様に中古機械しか売れない状態が続くことは良いとは思ひません。60歳定年制が65歳に延び、若者がいつまでたっても雇用されない状態と同様で、これでは日本の将来が停滞していつてしまいます。

いかにして我々は新品の機械を売っていくか？ これがこれからの重大な課題だと思ひます。



営業マン日記

さかい三十郎

名刺・電話・印鑑・切手の話題

販売業界では営業マンと顧客サイドの名刺交換から始まり、電話で商談が進展し、QCD（品質・価格・納期）が確認され売買契約書締結（捺印）となる。さらに製作仕様書が郵送で最終確認され機械製作段階へ移行していく。これら営業マンの必需品である「名刺・電話・印鑑・郵便切手」はどのようにして生まれたのか調べてみると、何れも歴史あるモノであった。

名刺の話題

業界イベントに出席すると従前は顔なじみが多く、会釈から近況話題へと会話が進んでいたが、最近ではメンバー会員の世代交代も進み、名刺交換することが多くなった。

名刺の歴史は中国から始まっていた。漢の時代（紀元前200年頃）に名刺の原型“刺”が利用され（当時は紙に文字を書くのではなく木片（竹）に名前を書いた）、これが名刺の語源とされている。

唐の時代（600～900年頃）、儒教により礼が重んじられ地位の有る人に面会を申し出る場合は、先ず取り次ぎの人に木片を渡すのが風習とされていた。この木片には先方に面会を申し出ると共に、便宜を図ってもらうため賄賂物品なども記載されていたらしい。

欧州ではドイツ（16世紀）において訪問した相手が不在のおり、自分の氏名を書いたカードが置かれていた。18世紀になると欧州全体の社交界で利用促進され、文字だけでなく絵なども記載され個人の特長が出てくる。19世紀には現在の名刺の原型である名前を印刷した紙の名刺が利用され始めた。

日本では江戸時代（19世紀）とされ、相手が不在の時に和紙に名を書き置いていた。幕末になると木彫り（木版）で刷られた印刷紙片が登場し、訪日した外国人と名刺交換が始まった。

電話の話題

電池・電信の発明から電話へとリレーされている。1799年ボルタは2種類の金属で出来た電池を発案した（彼の名は現在の単位ボルトとして称えられている）。1820年エルステッドはこの電池を使っていた時、近くにあったコンパスが振動するのに気付く“電流の磁気作用”を発見する。これが応用され電信へと進化する。

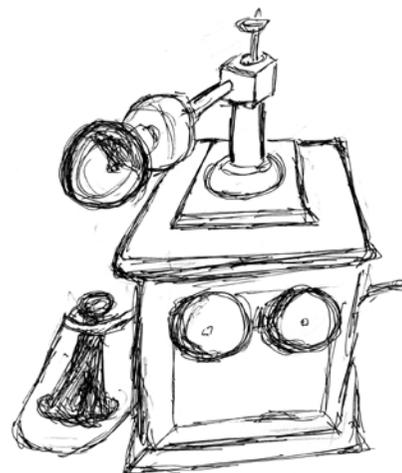
1825年、英国で電磁石が発明され電信機の基盤技術が確立する。1831年、最初の電信機（5針式）が発明され5個の磁針の2個に電流を流し残りの3針で電信させていた。

1838年NY、モールスは電信機によって1分間に10個の単語を送る実験に成功しこれが現在のモールス符号の原点となる。各地域に電線が張り巡らされ通信ネットワークが構築されていく。

電信が実用化されると“遠く離れた人と電信が出来るなら、遠くにいる人とも会話が出来るのではないか”と

発想される。音声を電気信号に変換する送話器と、電気信号から音声を再現する受話器（スピーカー）に必要な原理・機構が暗中模索される。

1876年3月10日ベルは電気で会話を伝送する電話を発明し通話実験に成功する。最初の会話は助手ワトソンへの連絡。“Mr. Watson, come here, I want to see you!”とある。当時ベルの下で修行中であった日本人留学生仲間でも、日本語通話を実施された（伊沢修二と金子賢太郎）。その後1877年に輸入され、文明開化の一品として開花していく。



印鑑（ハンコ）の話題

ハンコは古代文明シュメール時代（約6000年前）に円筒形の石や貝・骨を利用し、粘土上に転がして印を付け、封印や所有権の表示に利用されていた。シルクロードを経由し中国へ伝わり木製・青銅・陶器となり、石材も利用され始める。

日本には漢の時代に伝来している（名刺と同時期かも）。持統天皇の時代に神事に利用されたものが最古らしい。鎌倉時代に公文書や書物に署名後捺印する風習となり、武家の家紋となる花押も出てくる。江戸時代には庶民も利用するようになり、明治時代に公文書に登録済の印鑑を押すことが義務付けられ、明治6年10月1日に布告された。このことから10月1日は印章の日とされている。

切手の話題

世界初は1516年にイタリア人（個人）が提唱し、1657年にイギリス政府が国営事業とし栄枯盛衰が続いた模様だ。

国内の郵便制度の原型が出来たのは1871年（明治4年）4月20日イギリスより導入され、東京～大阪間で始まる。翌年には全国展開され飛脚に取って代わる。1877年万国郵便連合（UPU）に加盟し世界へ郵送できる一歩を進めている。

国内初の切手は亀の絵柄文字でデザインされた“亀文切手”。制度の提唱者は前島密であり昭和30年代後半までは“前島密の1円切手”が現役であった。

現在郵便局で販売中の切手額面は（次のとおり）1円から1000円まで23種ある。

「1、3、5、10、20、30、50、70、80、90、100、110、120、130、140、160、200、270、300、350、420、500、1000」

読者諸兄は切手や郵便にまつわる思い出がありませんか。筆者は北海道の女子高生と文通をした思い出があります。1970年ころ九段・科学技術館内に設置されていた当時では珍しいテレビ電話を通じて出会った縁です。2：2の出会いであり相方の同級生は文通を続け、九州から北海道までバイクで旅行・再会し結ばれましたが、小生は途中挫折し音信不通の次第です。

議事録から

第241回 定例理事会

日 時：平成24年11月15日(木)

15:00～17:00

場 所：名古屋・安保ホール 101号室

出席者：上田会長、副会長3名、専務理事、
理事18名、監事2名、事務局1名

会長挨拶：

今年はIMTS2012に続いて直近にはJIMTOF 2012が開催され、13万人の来場者があったそう
で活況を呈しており機械も新しいモデルが沢
山出展されておりました。上期半期は元気な感じ
で走り出していましたが、最近になりまして中国
経済の減速、中国での日本製品不買運動などあり
又政局も昨日衆議院の解散となり環境は混沌
としており不透明感がありますが、後ほど皆様
のご意見をお聞かせ願いたいと思います。このよ
うな環境下日工会より10月の受注速報が発表され
1000億円を切っておりますが累計で行くと目標
の1兆2000億円は達成出来るのではないかと
見ていますが、予断を許さない状況です。このよ
うな難しい状況ではありますが皆様と頑張っ
て行きたいと思っております。

【付議事項】

日工販事業活動への会員関係者の参加につ いて：

教育事業及び地区委員会事業の参加資格につ
いて明確にしたい旨提案があり、討議の結果今後
以下の通り取り進めることに決定した。

- ①教育事業については、会員・非会員の原則に
沿って会員関係会社は非会員扱いとする。
- ②各地域で行っている参加費が必要な事業活動
については、会員関係会社の参加を歓迎する
がコスト見合い分の負担を頂くことにする。
- ③参加費が無料である事業活動については、会

員及び会員関係会社の区別はしないが、定員
がある場合は会員を優先する。

【報告事項】

1) 平成24年度上期収支報告：

専務理事より報告。一般会計上期実績につ
いては、忘年会、賀詞交歓会など下期に開催され
る項目は予算をのこしているが特に指摘され
る問題点はなかった。

2) 流通動態調査平成24年9月結果、日工会・ 工作機械短観調査：

38社報告の9月の工作機械受注総額は254
億円で日工会発表内需310億円に対し83%を
占め、上期末でもあっていつもより高い比率を
示している。3ヵ月毎に行われる工作機械・FA
流通動態調査2の10月における今後の見通し
は前回7月に比べて全ての項目が悪くなって
いる。一方日工会発表の10月短観は7月短観
に比べ日工販と同様悪くなっており欧州金融
危機不安に加えて中国経済の減速が大きく影
響していると思われる。

3) 委員会報告：

①政策委員会

9月19日に日本工作機器工業会役員との懇
談会が行われ、10月2日に日本小型工作機
械工業会から日本精密機械工業会と新しい
団体名になって初めて役員との第2回目の
懇談会をもった。今後も継続して行きたい有
意義な会合であった。

②教育委員会

「提案営業力&技術提案力」向上研修会は
(財)日本立地センターの協力を得て開催

が実現し、受講生54名の参加があった。提案営業力向上を中心とした前期は9月20日、21日の2日間に行われ、技術提案力向上を中心とした後期は11月20日、21日の2日間開催予定。

③総務委員会

昨年8月23日に日工会の協力を得て工作機械に特化した貿易管理講習会が開催されたが、今回は前回と同じく講師として(株)ジェイテクト輸出管理室主査松浦和雄氏より4月以降の改正点を中心に説明があった。参加者は前回に比べ少なく24名。

④国際委員会

10月10日に新興国についての勉強会第一弾として(株)三菱東京UFJ銀行の協力を得てミャンマーの勉強会を開催した。参加者は35名。同銀行ヤンゴン駐在員事務所長深代律雄氏による『ミャンマーの投資環境』という講演に加えて『ミャンマーの物流事情』を郵船ロジスティクス(株)より講演があった。

⑤東部地区委員会

8月29日に情報交換会を開催、正会員11社18名、メーカー賛助会員15社21名、リース賛助会員2社3名が参加。計28社42名。全般的には急速に景気が悪くなっているという報告が大勢を占めている。9月3日に製品研修会が行われた。参加59名。IMTS及びJIMTOFを控え見本市出品機について三地区共通のメーカー4社に加え委員会で決定した1社を加え5社による研修会が行われた。

⑥中部地区委員会

10月2日、3日の2日間にわたって製品研修会を開催。共通4社に加え中部地区在のメーカー4社が参加し計8社となった。

⑦西部地区委員会

9月26日に製品研修会を開催、共通4社に関西のメーカー1社を加え5社が参加した。79名が参加した。10月24日に中堅・若手研修会を開催。講師は宇佐美専務理事。

第113回 調査広報委員会

日 時：平成24年11月29日(木)

16:00~17:00

場 所：機械工具会館5階会議室

出席者：田尻委員長、委員6名、事務局2名

計9名

議 題

1) 平成24年度年度上期実績の件

専務理事より上期実績の報告があった。日工販ニュースについては、ほぼ予算通り推移しているが、ホームページについては会員名の変更、改定力所が多く予算が残り少ない。

2) 日工販ホームページ改良の件

ホームページを担当していた職員が退職したため、入力を出来るだけ簡素化することと、これを機会に会員がより見易くするための改良を加えたことの報告があった。

3) 日工販ニュースの件

今年度はあと1月にVol.4、2月Vol.5を発行予定で内容につき確認した。

次回委員会開催予定

平成25年3月13日(水) 12:30~15:00

『提案営業力&技術提案力』向上研修会

教育委員会は毎年実施しているSE教育に加え初めての試みとして、より専門性を深めた自動車産業分野に関する研修会を(財)日本立地センター立地総合研究所の協力を得て次の通り開催しました。受講生は54名。



《前期：提案営業力向上を目指す》

◆第1回 9月20日(木)◆ (講義、グループ討議、交流会)

時間	(分)	講義名	講師 (敬称略)
10:00~10:05	5	開講式	日工販 副会長・教育委員会委員長 後藤正憲
10:05~10:10	5	オリエンテーション	日本立地センター立地総合研究所主任研究員 林 聖子
10:10~11:20	70	① 工作機械業界のグローバルな動向	日工販 専務理事 宇佐美 浩
11:20~12:30	70	② インドと日本のエンジン事情…燃費の話	スズキ㈱ 常務役員 濱田茂明
12:30~13:30	60	昼 食	
13:30~14:40	70	③ 次世代自動車産業の現状	東京大学生産技術研究所先進モビリティ研究センター (元トヨタ自動車) 客員教授 田中敏久
14:40~15:00	20	休 憩	
15:00~17:30	150	グループ討議(10グループ想定) 自己紹介、ケースreading、課題の提示、 グループ討議(以後はバーチャルで)	モデレーター： 日本立地センター立地総合研究所主任研究員 林 聖子
17:50~19:00	70	交流会	

◆第2回 9月21日(金)◆ (講義、グループ討議、グループ別プレゼンと講師による講評)

時間	(分)	講義名	講師 (敬称略)
10:00~11:10	70	④ 輸出貿易管理	経済産業省貿易経済協力局貿易管理部 安全保障貿易審査課長 長濱裕二
11:10~11:20	10	休 憩	
11:20~12:30	70	⑤ アジア展開における日系企業の経営戦略	亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科 委員長・教授(前学長) 池島政広
12:30~13:10	40	昼 食	
13:10~14:20	70	⑥ 次世代自動車の技術予測と自動車産業 への参入戦略	広島県立総合技術研究所長 (前マツダ車両開発本部主幹、元技術研究所長) 松岡 孟
14:20~14:30	10	休 憩	
14:30~15:40	70	⑦ 次世代自動車産業参入経営と工作機械 開発による海外展開戦略	多摩川精機㈱ 代表取締役社長 萩本範文
15:40~15:50	10	休 憩	
15:50~16:50	60	グループ討議とりまとめ	モデレーター： 日本立地センター立地総合研究所主任研究員 林 聖子

16:50~18:30	100	グループ別プレゼンと講師からの講評	日工販 専務理事 宇佐美 浩 亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科 委員長・教授(前学長) 池島政広 広島県立総合技術研究所長(前マツダ) 松岡 孟 多摩川精機(株) 代表取締役社長 萩本範文 前東京都立青山高等学校長(元三菱商事) 近藤京志 モデレーター： 日本立地センター立地総合研究所主任研究員 林 聖子
-------------	-----	-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

《後期：技術提案力向上を目指す》

◆第3回 11月20日(火)◆

ユーザーの生産現場から見た効果的なものづくりー工作機械・生産設備編(講義・パネルディスカッション)

時間(分)	講義名	講師(敬称略)
10:00~11:10	⑧「製造現場を支える革新手法と工作機械の条件」 ①TPM (Total Productive Maintenance) / ・チョコ停 ロス0(ゼロ)、自動化ラインの無人運転へのアプローチ	前愛知機械工業(株) 取締役生産本部長 林 重晴
11:10~11:20	休憩	
11:20~12:30	⑨「製造現場を支える革新手法と工作機械の条件」 品質コストの最適化	早稲田大学商学大学院教授 伊藤嘉博
12:30~13:30	昼食	
13:30~14:40	⑩工場の海外展開における生産設備について	ジャトコエンジニアリング(株) 取締役社長 今村博司
14:40~15:00	休憩	
15:00~17:00	パネルディスカッション： 工作機械・生産設備の今後	パネリスト： ジャトコ(株) 前専務取締役 海老原靖弘 前愛知機械工業(株) 取締役生産本部長 林 重晴 早稲田大学商学大学院教授 伊藤嘉博 ジャトコエンジニアリング(株) 取締役社長 今村博司 日工販 専務理事 宇佐美 浩 日本立地センター客員研究員 仁木信昌 モデレーター： 日本立地センター立地総合研究所主任研究員 林 聖子

◆第4回 11月20日(火)◆ 次世代自動車部品の革新的技術編(講義・自己評価)

時間(分)	講義名	講師(敬称略)
10:00~11:10	⑪ 同時多段プレス技術による自動車部品 生産の効率化	小泉プレス工業(株)技監 小川正則
11:10~11:20	休憩	
11:20~12:30	⑫ エンジン、およびエンジン周辺部品の ケーススタディ	日本立地センター客員研究員 仁木信昌
12:30~13:30	昼食	
13:30~14:40	⑬ トランスミッション ①ダブルクラッチトランスミッション (日産GT-R)	前愛知機械工業(株) 取締役生産本部長 林 重晴
14:40~14:50	休憩	
14:50~16:00	⑭ トランスミッション ②ATの現状と課題、将来の技術革新への対応	ジャトコエンジニアリング(株) 取締役社長 今村博司
16:10~16:20	休憩	
16:20~17:30	⑮ 車体の軽量化技術の現状と将来展望	マツダ(株) 技術研究所副所長 山本幸男
17:30~17:50	自己評価(アンケート含む)	日本立地センター立地総合研究所主任研究員 林 聖子
17:50~18:00	閉講式	日工販 専務理事 宇佐美 浩

東部地区講演会・忘年懇親会

講演会

日 時：平成24年12月7日(金)

15:00~16:40

会 場：八重洲富士屋ホテル2階「櫻の間」

演 題：「中国の高速鉄道と都市鉄道の発展について」

—中国における四半世紀の発展とその現状・問題点—

講 師：辻村 功 氏

クノールプレゼム鉄道システムジャパン(株)プロジェクトエンジニア

出席者：正会員29名、メーカー賛助会員27名、招待他4名 総計60名

藤井副委員長(三井物産マシンテック(株) 理事) 司会のもと紹介があり、下記題材に基づいて講演がありました。

1. 蒸気機関車が主役だった中国の鉄道

- ・ 蒸気機関車、ディーゼル機関車、電気機関車の変遷(1980年~)

2. 世界最高速の列車が出現するまで

- ・ 客運專線(新幹線)の開通(2008年~)
- ・ 車両のルーツと進化
- ・ 「四縦四横」高速鉄道網計画(中国全土)
- ・ 温州高速列車追突事故
- ・ 上海磁浮列車(ドイツ製を採用、最高速度430km/h)

3. 総延長で東京を抜いた北京の地下鉄

- ・ 1969年に中国初の地下鉄として開通
- ・ 北京地下鉄は延伸も含め6路線を建設中(現在総延長372km、2015年には560kmになる予定)

4. 中国の鉄道・中国人とのつきあい方

忘年懇親会

会 場：「櫻の間」17:00~18:20

出席者：正会員26名、メーカー賛助会員30名、リース賛助会員18名 招待他7名 総計81名

講演会に引き続き、藤井副委員長(三井物産マシンテック(株) 理事)の司会のもと忘年懇親会となりました。角田委員長(丸紅マシンツールズ(株) 副社長)より開会の挨拶があり、乾杯に移り、上田会長(三菱商事テクノス(株)社長)より協会活動へのご理解とご支援のお礼と、英知を結集し総合力を発揮すれば必ず明るい未来が来るものと確信します、と力強い乾杯のご発声で賑々しく開催されました。

盛会のうちに野上副委員長(株)ナチ常盤取締役)の中締め挨拶があり散会となりました。



角田委員長



中部地区工場見学会

日 時：平成24年11月27日(木)
8：30～17：00

●見学先

①(株)アマダマシンツール／土岐事業所

TEL 0572-51-3111

〒509-5100 岐阜県土岐市泉町久尻字北山
1431-37

・2011年10月に小牧・福井を統合され、切削・工作機械の製造拠点を見学

【スケジュール】小林 副部門長挨拶～商品紹介～工場見学・展示場見学～質疑応答～謝辞～昼食

②(株)ミツトヨ／中津川工場

TEL 0573-68-8201

〒509-9132 岐阜県中津川市茄子川1688-189

・ダイヤルゲージ及び関連製品の機械加工・組み立て工場の製造現場を見学

【スケジュール】鈴木工場長挨拶～会社・概要説明～工場見学～質疑応答～謝辞

参加形態：名古屋駅集合・解散／貸し切り大型バスで移動

参加者数：正会員33名

【株式会社アマダマシンツール／土岐事業所】

★概要

今年の工場見学会の1社目は2011年11月に福井と小牧の各事業所を統合して稼働を開始された、(株)アマダマシンツールを見学しました。当地、土岐市は日本のほぼ中央に位置し、美濃焼きとしての日本一の陶磁器生産地でもあります。緑豊かな



丘陵地に4.7万坪の広大な土地に開発・製造・販売・サービスを一貫してサポートする総合拠点として設けられた。特に徹底した環境への取組みとして可能な限りの「創エネ」、「省エネ」が構築され、工作機械メーカーとしては中部地区初のオール電化工場+太陽光発電とし、テクニカルセンターではゼロ・カーボンが実現されています。

●見学前に下記のエリア毎の紹介がありました。

■生産

モジュール生産+屋台ブース生産方式を採用し、工場内の徹底した物流改善の取り組みがなされています。又、それらと共に機械加工設備に於いては、他社機械メーカーとタイアップしたアマダスペシャルマシンを多数配備し、加工工程・効率の改善が期されています。

■テクニカルセンター

エンジニアリングへの提案

■アマダホール

講演・セミナー・スクールの開催

■開発センター

お客様へQCD(品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery/Time))を提供する為の商品開発

●工作機械販売部門 小林 太 副部門長

事業所を統合して丁度一周年の機会に見学先として選定されたことへのお礼、そして日本のモノづくりをしっかりと固めて世界に打ち出して行くことがアマダグループの姿勢であること、お客様、販売店各位のニーズをしっかりと捉えて進めたい考えであることなどのご挨拶がありました。

- ・営業の責任者各位の紹介、JIMTOF 出品機の紹介があり、工場見学に移りました。
- ・当日は折しもISO14001の審査日とのことでもあったが、見事なほどに無駄の無い配置、標準モジュールの在庫群等を感じながら見学。特に機械加工設備においては、ことごとくアマダスペシャルと記され、工程集約された大型加工機を多数見学することが出来ました。
- ・工場見学の後、展示場を自由見学。
- ・質疑応答の後、委員長代理として同行の(株)井高の間瀬常務から販売事例を加えての謝辞を得て見学を終了しました。

【株式会社ミットヨ／中津川工場】

鈴木幹男工場長から挨拶及び工場の概要説明をして頂きました。

標高485m、中津川市の工場団地の中でも最上段にあり隣地はゴルフ場といった環境に立地され、操業開始は1997年6月。当工場は、ダイヤルゲージ、センサー類を初めとしてアクセサリー商品も含めた関連製品全般、約450品目を製造されており、部品の内製率は80%に及び。

加工工場には切削加工を初めとして非常に多くの工程が所狭しと配備されており、その中でも主たる切削加工にはNC自動盤が27台、これは4人で管理しており24時間稼働も可能とのこと。

生産累計は実に1870万個に及び、世界でもトップであろうということ、そして国内シェアとしては64%とトップシェアを誇る。

機械加工エリアの後は、組み立て工場を見学。標準量産品目は自動組み立て機、そして自動測定機で半自動化されている中、特殊注文品などにも積極的に受注展開しおり、1個流しのセル生産にも対応されていることなどから、想像を絶する細かい作業と工程管理が組み立てられていることに感服の感を覚える見学でした。今回の道中は折しも素晴らしい紅葉に彩られており、美しく冠雪した南アルプスや御岳を遠くに眺めながらの、目の保養や気分のリフレッシュにもなったことと思われる見学会となりました。エントリーエラーも無く出発から帰着まで予定通りに事故もなく催行出来ましたことは何よりでした。

今回、見学を受け入れて頂きました両社、ご参加頂きました会員の皆様のご協力に御礼を申し上げます。

中部地区講演会・忘年懇親会

日 時：平成24年12月6日(木)

16:00~19:00

会 場：メルパルク名古屋

■ 記念講演会

会 場：「瑞雲(西)の間」 16:00~17:15

参加者：144名

講 師：土屋総二郎氏

(株)デンソー 取締役副社長

演 題：『デンソーのモノづくり』

講演会は釜屋(株)山本社長の司会により、まず高田委員長から挨拶及び講師、土屋総二郎氏の経歴紹介があり開始されました。講演終了の後、数件の質疑応答があり、最後に加藤副委員長(三立興産(株)社長)から、本日の講演内容を今後の展開に

活かすべく、メーカー各位のご協力をお願いする旨の謝辞を以って締めくくられ終了しました。



土屋総二郎氏

【講演内容要旨】

1. 会社紹介

◇会社概要／主力製品／海外拠点と地域別売上

2. 自動車産業を取り巻く環境の変化

◇地球環境問題と市場構造の変化

◇超低価格車市場の出現

◇主要通貨の為替推移

3. 環境変化に対応した製品開発

◇クルマの進化の特徴／先進的クルマ社会のための開発

環 境：省燃費／電動化製品の開発

- ・HV用モータージェネレータ
 - ・EHV用インバータ
 - ・ディーゼル圧力センサ内臓型インジェクタ
 - ・ガソリン直噴システム、電動VCT、ATモジュール
 - ・アイドルストップ用タンデムソレノイドスタータ
- 快 適：エアコンシステムの小型化・高性能化
- ・熱交換器の小型、高性能化
 - ・エジェクタ—体工パポレータ
 - ・ヒートポンプ
- 安 全：ドライバーの安全を支えるセンサ製品
- ・レーザーダ
 - ・ナイトビューヘッドアップディスプレイ
- 利 便：ドライバーと車内外の情報を繋げる通信機器
- ・インフラ協調システム
 - ・HEMS

4. デンソーのモノづくり

◇製品競争力を支える要素技術

高効率・高精度を実現する加工技術開発

- ・微細孔加工
- ・流動制御プレス加工
- ・高精度・高品質ダイカスト
- ・PALAP 部品内臓技術

◇生産システム・設備技術

ムダの廃除、加工法見直しによる低コスト化

- ・CS3ライン
- ・1/N加工機

5. まとめ

- ・自動車を取り巻く環境変化や先進的クルマ社会の実現に向けて、「環境」、「安全」、「利便」、「快適」面から様々な製品を開発
- ・内製技術に「こだわり」、生産技術と設備で徹底的にムダ取りをしたCS3設備、1/N加工機を開発。今後はサプライチェーンをスルーで見た上で、生産効率の徹底した追求をする。
- ・日本の競争力はグローバル競争力の根源
日本の競争力強化のためには、一歩先の高度な技術開発と卓越した技能による強い生産現場づくりが必要

■ 忘年懇親会

「平安の間」 17:30~19:00

参加者：135名

加藤副委員長（カトー機械(株)社長）の司会により開会。

高田委員長（株井高社長）より日頃の活動への御礼、2012年度開催済み行事のご報告がありました。

昨年は多くの天災に見舞われ、今年はヨーロッパ金融不安、国内



高田委員長

政治の不安定、複数主要国のトップ交代、領土問題などでの人災の年だった。自動車業界では設備投資が進み活況を呈したものの来年は厳しい見通し。しかし2015、16年に向けては更なる海外への設備投資が予測されている。本日の講演の中では2030年には1億3千万台迄への成長予測があり、更に中部は日本のマスター工場としての位置づけであることから、これからも引き続き成長が見込める中で、日本のモノづくりに少しでも多く携わることが商社の存在性、必要性となり存続に繋がるものであるとの挨拶がありました。

◆会長挨拶

上田会長（三菱商事テクノス(株)社長）から、急速に展開するグローバル化の一方で環境が目まぐるしく変化している。このような時こそ原点



上田会長

に立ち返りたい。日本では世界にも類を見ない製・販・ユーザーの三位一体が確立されており、世界に広がって行くモノづくりの中で、我々が果たすべき機能は益々多くなってきている。今後の市場をしっかりと見据え、バリューチェーンを三位一体で進めることが日本のモノづくりの進化に繋がり各位の幸せに繋がる。日工販としては色々な機会を提供し、皆様からのご支援を頂きながら今後ともよろしくお願ひしたい旨のご挨拶

挨拶がありました。

◆新会員紹介

2012/5入会の(株)大和商会様が紹介され、平岩社長から力強いご挨拶がありました

◆乾杯

曾我社長(富士機械製造(株))から、自社機械(実装機)に伴うIT機器の利用促進アピールがあり早速、各位の発展と健康、更に本日参加の皆様は特別に幸せに！なれるようにことのご発声により乾杯が行われました。



曾我富士機械製造(株)社長

◆中締め

後藤副会長(三栄商事(株)社長)

アメリカ大統領は再選、中国は交代、日本そして韓国の首相も間もなく決まる。これからのグローバルな時代に工作機械業界としては良い悪いに関わらず巻き込まれて行くことになりTPPも非常に重要な課題。私的にはTPPに参加して益々業界が発展して欲しいと考えており、来年には目が覚めるが如く広がってくると思われる。我々業界にはまだまだ夢がある。講演の中でのCS3、1/Nを遂行していけばまだまだ十分戦える！との力強い挨拶の後、一本締めで本日の懇親会は盛会のうちにお開きとなりました。

西部地区懇親ゴルフ大会

開催日：平成24年11月29日(木)

場 所：センチュリー三木ゴルフ倶楽部

参加者：正会員11名、賛助会員3名、計14名

懇親ゴルフ大会は兵庫県の人気ゴルフ場「センチュリー三木ゴルフ倶楽部」で開催されました。当日は天候に恵まれ秋晴れのなか日頃の激務を忘れて和気藹々とプレーに励み懇親を深めました。ダブルベリアでの上位入賞者は次の通りです。

順位	氏名	会社名	OUT	IN	GROSS	HCP	NET
優勝	岩切 修	京華産業(株)	47	54	101	26.4	74.6
準優勝	小野山 昭英	(株)山善	46	48	94	19.2	74.8
3位	山下 保秀	三菱商事テクノス(株)	49	57	106	31.2	74.8
4位	増田 健司	東銀リース(株)	53	58	111	36	75
5位	赤澤 正道	赤澤機械(株)	48	46	94	16.8	77.2

西部地区講演会・忘年懇親会

講演会

日 時：平成24年12月5日(水)

15：00～16：45

会 場：大阪弥生会館「三笠の間」

演 題：「構造的不況の要因」

講 師：本田逸郎氏 兵庫県立大学工学部准教授

出席者：正会員45名、メーカー賛助会員25名、

リース賛助会員12名、招待他10名

総計92名

横幕副委員長(伊吹産業(株)社長)より本日の講師である講師本田逸郎氏の紹介があり講演がスタートしました。

講演要旨

来月発行予定の「日工販ニュースVol.4」に掲載します。

忘年懇親会

「六甲の間」 17:00～18:45

出席者：正会員45名、メーカー賛助会員28名、
リース賛助会員22名、招待他10名
総計105名

講演会に引き続き、横
幕副委員長の司会
のもとで忘年懇親会
となりました。赤澤委員
長（赤澤機械(株) 社長）
より平成24年度の活
動報告と日頃の協力
への御礼があり、今年
5月に急逝された元日工販副会長として長年日
工販を支えて頂いた植田機械(株)取締役会長故
植田精一氏の功績を称えご冥福を祈り、来年の
一層の飛躍を祈念して開会の挨拶があり、続い
て上田会長より挨拶を頂きました。大阪機工(株)



赤澤委員長



取締役社長井関博文氏
よりご挨拶と乾杯のご
発声を賜り賑々しく開
催されました。工作機
械業界にとって回復の
兆しが見えた一年でし
たが、来年に向け更なる
期待をかけ前向きな
情報交換が行われる中、定刻となり宮脇委員（日
工販副会長 宮脇機械プラント(株)社長）の中締め
により盛会のもとに散会となりました。



井関博文氏



平成24年度 更新研修実施報告

更新研修は、2カ所で2日間の集合教育が実施されました。

東京 11月9日(金)・10日(土)

名古屋 11月16日(金)・17日(土)

受講者は、東京40名、名古屋57名の総計97名。

カリキュラムは下記の通り。



更新研修カリキュラム(必修講座、特別講座)

第1日(必修講座)	第2日(特別講座)
開講挨拶・オリエンテーション ①最先端のものづくりと連携戦略 ②自動車部品機能向上のための加工技術 ③精密加工の原点とこれから ④投資効果についての考え方 テスト・アンケート	①講演「商社マン、進学校校長の体験からビジネス社会で見える事」 ②グループ作業「みんなで考えよう問題解決」 討議・発表・質疑応答(午前午後にわたり2回実施)、講評、総括 アンケート

特別講座のグループ作業では他企業の方との意見交換・討議となり好評をいただきました。講師の方々をはじめ、ご協力をいただきました関係各位には厚くお礼申し上げます。



日工販SE合格者 第190回発表

2012年11月・12月の合格者15名です。

2012年11月の合格者12名

認定No.	会社名	合格者名
12-21-2726	(株)NalTO	斎藤 学
12-21-2727	(株)NalTO	柳澤 武
12-21-2728	三菱商事テクノス(株)	澤田 耕伸
12-21-2729	三菱商事テクノス(株)	尾崎 雅之
12-21-2731	ユアサ商事(株)	錦見 憲嗣
12-21-2730	ユアサ商事(株)	小原 大樹
12-21-2732	湯浅商事(上海)有限公司	桑原 淳司
12-21-2733	サンコー商事(株)	福岡 翼
12-21-2734	ワシノ商事(株)	高木 浩次

認定No.	会社名	合格者名
12-21-2735	植田機械(株)	采尾 浩二
12-21-2736	オークマ(株)	飯田 善文
12-21-2737	三井住友ファイナンス&リース(株)	佐藤 達朗

2012年12月の合格者3名

認定No.	会社名	合格者名
12-21-2738	三栄商事(株)	杉山 豊
12-22-2739	三井物産マシンテック(株)	駒井 隆行
12-22-2740	(株)東陽	鈴木 直暁

更新研修合格者 第122回発表

2012年度の合格者97名です。

認定No.	会社名	合格者名
12-07R-1403	(株)旭商工社	藤巻 智樹
12-07R-1499	(株)旭商工社	谷 功二郎
12-07R-1556	(株)旭商工社	今井 忠
12-17R-1365	伊藤忠マシンテクノス(株)	出浦 康之
12-17R-2148	(株)兼松KGK	小柳憲太郎
12-17R-2274	(株)兼松KGK	佐藤 純也
12-17R-2033	(株)京 二	市川 忠能
12-17R-1754	(株)京 二	会田 宏幸
12-17R-2056	(株)京 二	井上 広
12-17R-2057	(株)京 二	古橋 善仁
12-17R-1905	(株)共和工機	島津 健
12-17R-2028	(株)共和工機	下山 淳
12-17R-1992	(株)テツカ	安齋 秀紀

認定No.	会社名	合格者名
12-17R-1993	(株)テツカ	秋庭大二郎
12-07R-1563	(株)テツカ	大池 崇文
12-17R-2031	(株)NalTO	蛭川 孝司
12-17R-2032	(株)NalTO	吉永 和弥
12-17R-2073	(株)NalTO	山本 朗
12-17R-2083	(株)NalTO	福留 豊
12-17R-2154	(株)NalTO	西村 孝之
12-17R-2163	三井物産マシンテック(株)	伊代田真祥
12-17R-2177	三井物産マシンテック(株)	吉原 伸治
12-17R-2136	三菱商事テクノス(株)	小松崎正浩
12-17R-2179	三菱商事テクノス(株)	小澤慎太郎
12-17R-2178	三菱商事テクノス(株)	竹重 大樹
12-17R-2155	三菱商事テクノス(株)	政本 一志

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
12-17R-2191	三菱商事テクノス(株)	小野木 誠	12-17R-1999	メルダスシステムエンジニアリング(株)	松浦 徹
12-17R-2052	ユアサ商事(株)	横溝 勝己	12-17R-2020	メルダスシステムエンジニアリング(株)	安倍 和人
12-17R-2054	ユアサ商事(株)	小林 耕司	12-17R-2039	メルダスシステムエンジニアリング(株)	伊藤 政江
12-17R-2219	岡谷機販(株)	江津 由兼	12-17R-2040	メルダスシステムエンジニアリング(株)	関口 強
12-17R-2317	岡谷機販(株)	大石 聡	12-17R-2041	メルダスシステムエンジニアリング(株)	熊井慶一郎
12-17R-2180	岡谷機販(株)	横山 功一	12-17R-2100	メルダスシステムエンジニアリング(株)	藤井 徹
12-17R-2278	釜屋 (株)	渡邊 洋	12-17R-2129	メルダスシステムエンジニアリング(株)	杉田 丈裕
12-17R-2279	釜屋 (株)	菱田 章宏	12-17R-2159	メルダスシステムエンジニアリング(株)	古田 智大
12-17R-2156	甲信商事(株)	佐藤 誠	12-17R-2309	メルダスシステムエンジニアリング(株)	長谷川主税
12-17R-2164	三栄商事(株)	山森 聖悟	12-17R-2113	近畿総合リース(株)	森口 宏志
12-17R-2165	三栄商事(株)	嶋本 和平	12-17R-2114	近畿総合リース(株)	西井 大樹
12-17R-1826	サンコー商事(株)	勝矢 了一	12-17R-2115	近畿総合リース(株)	長尾 章
12-17R-1814	サンコー商事(株)	後藤 宏佐	12-17R-2116	近畿総合リース(株)	亀井 哲
12-17R-1850	サンコー商事(株)	馬場 真也	12-17R-2117	近畿総合リース(株)	安井 清史
12-17R-1852	サンコー商事(株)	大野 幸彦	12-17R-2174	近畿総合リース(株)	中尾 和瑛
12-17R-2207	(株) 東 陽	磯貝 圭一	12-17R-2147	JA 三井リース(株)	吉田 匡彦
12-17R-2220	(株) 東 陽	村上 洋	12-17R-2045	首都圏リース(株)	木村 光男
12-17R-2251	(株) 東 陽	石黒 英之	12-17R-2080	首都圏リース(株)	乾 太郎
12-17R-2280	(株) 東 陽	杉山 洋平	12-17R-2081	首都圏リース(株)	本田 和靖
12-17R-2169	山下機械(株)	田村 淳	12-17R-2109	首都圏リース(株)	町田 栄太
12-17R-2170	山下機械(株)	藤原 俊太	12-17R-2110	首都圏リース(株)	中屋 秀俊
12-17R-2181	山下機械(株)	森野 主崇	12-17R-2160	首都圏リース(株)	福田 健
12-17R-2094	大幸産業(株)	山田 吉生	12-17R-2070	日立キャピタル(株)	川上 健一
12-17R-2095	大幸産業(株)	小林 武志	12-17R-2013	日立キャピタル(株)	寺田 浩治
12-17R-2128	大幸産業(株)	山田 淳滋	12-17R-2068	日立キャピタル(株)	広瀬 充徳
12-17R-2142	大幸産業(株)	木村 研介	12-17R-2069	日立キャピタル(株)	那須 武史
12-17R-2223	西川産業(株)	大田 大輔	12-17R-2118	山田マシンツール(株)	小玉 勇輝
12-17R-2224	西川産業(株)	半田 勇二	12-17R-2295	(株)松田精機	白井田裕司
12-17R-2252	西川産業(株)	久保田直宏	12-17R-1986	安藤(株)	山本 貴弘
12-17R-2253	西川産業(株)	東野 和宏	12-17R-2002	安藤(株)	内田 徹
12-17R-2254	西川産業(株)	坂元 暁紀	12-17R-1884	岩谷産業(株)	三村 智暁
12-17R-2248	(株) 山 善	伊澤 祐平	12-17R-2046	昭栄産業(株)	高橋 健治
12-17R-2138	(株) 山 善	木原 祐介	12-17R-2047	昭栄産業(株)	渡辺 利也
12-17R-2271	(株) 山 善	井上 剛志	12-17R-2125	ひろぎんリース(株)	今田 時人
12-17R-2306	(株) 山 善	神村 英彦	12-17R-2303	(株)豊幸	小山 典彦
12-17R-2308	三菱電機(株)	中園 弘崇			

統

計

資

料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

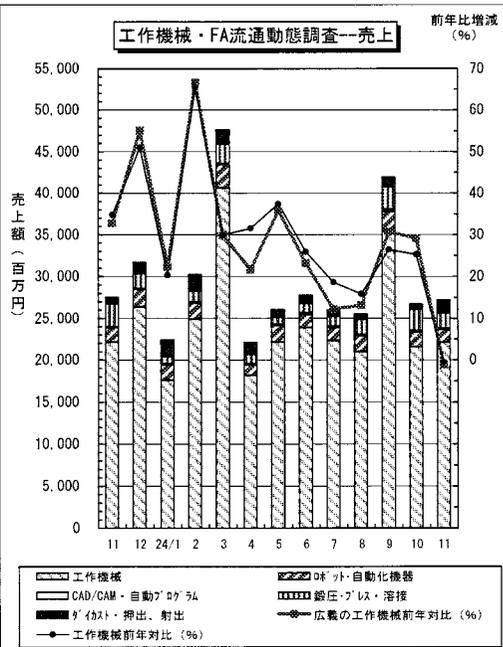
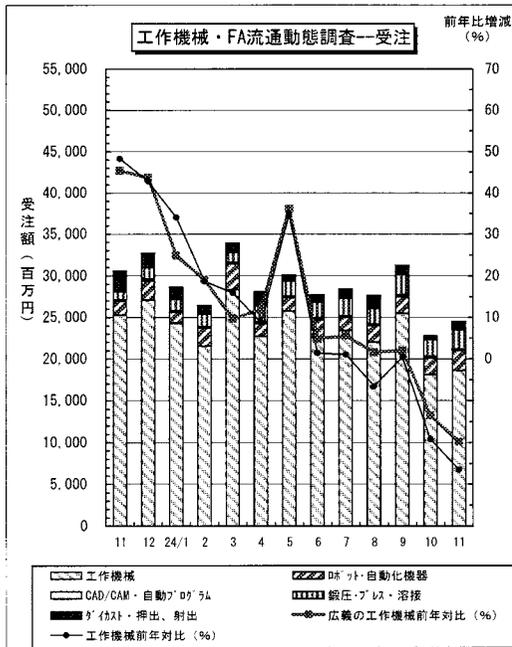
39社合計		受 注				売 上				
調査月次	24/11	前月比	前年比	24/1-11	前年比	24/11	前月比	前年比	24/1-11	前年比
広義の工作機械	18,602	2.8%	-26.5%	252,683	4.1%	22,065	2.3%	-0.5%	269,712	25.9%
ロボット・自動化機器	2,368	16.3%	42.5%	21,903	18.6%	1,593	-10.0%	-5.0%	20,557	17.0%
CAD/CAM・自動プログラム	145	7.8%	7.0%	1,941	18.1%	112	-32.0%	-7.1%	1,757	14.5%
鍛圧・プレス・溶接	2,336	15.0%	131.7%	20,893	20.6%	1,850	-27.7%	-33.5%	17,621	6.1%
ダイカスト・押出・射出	1,046	113.9%	-57.3%	11,933	6.4%	1,545	144.0%	103.0%	13,793	51.8%
小計	24,496	7.5%	-19.8%	309,354	6.2%	27,164	1.8%	-1.2%	323,439	24.9%
工作機械以外の扱い商品	15,189	-16.5%	-13.5%	169,448	6.2%	16,920	31.2%	6.5%	173,571	12.0%
合計	39,685	-3.2%	-17.5%	478,802	6.2%	44,084	11.4%	1.6%	497,010	20.1%
従業員数	1,294	0.2%	-0.3%							

統計2

単位百万円

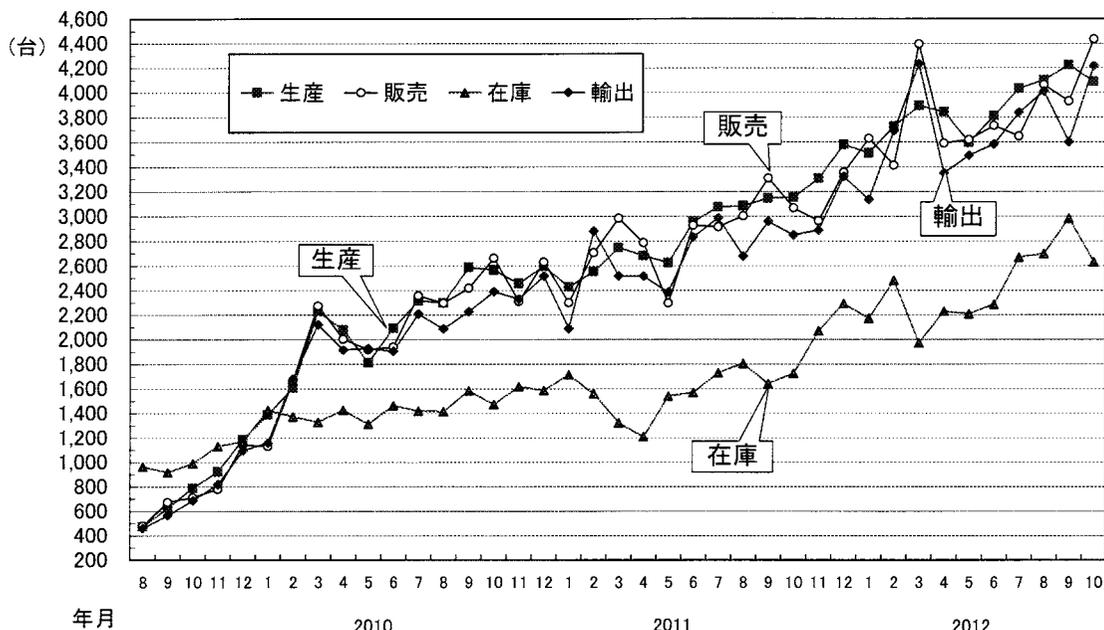
30社合計		受 注				売 上				
調査月次	24/11	前月比	前年比	24/1-11	前年比	24/11	前月比	前年比	24/1-11	前年比
直販 (内リース)	14,333	-6.3%	-25.2%	180,709	3.1%	16,613	15.4%	12.5%	187,070	18.4%
卸	418	-56.6%	-18.8%	7,731	-7.9%	636	-42.1%	39.2%	10,046	1.2%
卸	4,956	14.3%	-26.4%	61,429	-0.3%	4,136	-22.5%	-11.8%	63,373	14.8%
輸入	1,148	-38.6%	71.4%	12,664	41.2%	1,164	56.9%	18.0%	13,445	16.2%
輸出 (内間接輸出)	8,605	-4.6%	-15.1%	105,698	24.4%	9,295	9.2%	1.0%	107,856	57.4%
従業員数	969	-0.1%	-2.7%							

注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員69社中統計1に関しては38社、統計2に関しては29社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は41社である。

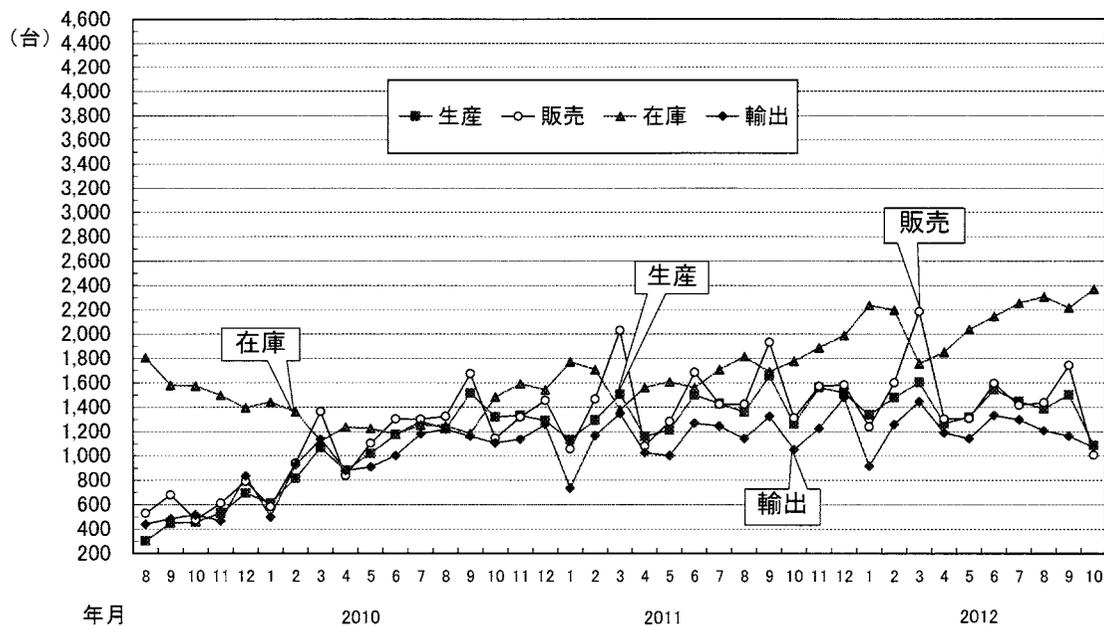


見てわかる 3年間の代表2機種の特長

マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



出所：経済産業省「生産動態集計」、財務省「貿易統計」

工作機械業種別受注額(2012年11月)

10月17日発表

(単位:百万円、%)

需要業種	期 間	2011年 累 計	前年比	2012年 4~6月 累 計	2012年 7~9月 累 計	前期比	前 年 同 期 比	2012年 1~11月 累 計	前年同月比	11月分	前月比	前年同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属		8,766	144.6	1,917	1,756	91.6	99.4	6,766	89.5	979	173.9	162.6
2. 金属製品		16,595	147.9	3,250	4,180	128.6	104.3	12,979	84.9	1,313	136.8	133.0
3. 一般機械		188,942	150.5	45,152	40,229	89.1	84.4	150,257	86.2	11,986	117.0	77.3
(内金型)		21,803	133.3	5,792	5,633	97.3	90.9	20,465	104.1	1,864	124.8	87.4
4. 自動車		122,256	136.8	31,801	26,613	83.7	79.8	108,165	97.0	9,936	109.3	81.9
(内自動車部品)		83,748	140.2	19,654	16,102	81.9	70.0	67,234	88.4	5,557	88.6	70.0
5. 電気機械		23,613	122.8	5,690	5,232	92.0	90.4	18,732	85.9	1,302	70.0	68.5
6. 精密機械		22,858	106.5	4,171	4,110	98.5	69.2	15,192	72.0	1,257	119.1	41.7
5~6. 電気・精密計		46,471	114.2	9,861	9,342	94.7	79.6	33,924	79.1	2,559	87.8	52.1
7. 航空機・造船・運送用機械		13,662	97.2	4,786	4,060	84.8	109.2	17,183	138.3	1,526	86.1	134.8
3~7. 小 計		371,331	137.7	91,600	80,244	87.6	83.2	309,529	90.8	26,007	108.2	77.2
8. その他製造業		13,969	133.2	2,672	3,063	114.6	79.9	9,419	73.1	609	75.0	45.8
9. 官公需・学校		3,247	98.6	203	1,372	675.9	348.2	2,734	103.8	320	90.4	64.6
10. その他需要部門		5,287	106.7	1,426	1,492	104.6	103.5	5,480	118.8	309	52.2	69.4
11. 商社・代理店		2,404	132.0	678	778	114.7	83.4	3,013	137.0	326	151.6	181.1
1~11. 内 需 合 計		421,599	137.1	101,746	92,885	91.3	85.3	349,920	90.6	29,863	108.5	79.1
12. 外 需		904,589	134.8	219,067	216,527	98.8	101.2	778,412	94.5	58,307	87.3	78.5
1~12. 受 注 累 計		1,326,188	135.5	320,813	309,412	96.4	95.9	1,128,332	93.2	88,170	93.5	78.7
(内NC機)		1,290,606	138.1	313,492	302,844	96.6	96.4	1,100,744	93.4	85,904	93.5	79.1
販 売 額		1,179,316	138.5	303,000	362,495	119.6	114.5	1,217,899	114.8	95,487	105.5	93.0
(内NC機)		1,143,920	140.4	296,485	354,050	119.4	115.0	1,185,371	115.2	92,303	104.5	92.3
受 注 残 高		653,138	128.5	621,623	574,865	92.5	91.3	571,375	87.2	571,375	98.7	87.2
(内NC機)		623,263	130.2	593,940	549,009	92.4	91.5	546,114	87.3	546,114	98.8	87.3

(注) その他製造業 …… 楽器、皮革製品等の製造業

出所 (一般社)日本工作機械工業会

大震災に思う日本の底力



(株)共和工機
営業本部 営業業務部
取締役部長

増田博巳

2011年3月11日大震災がまだ鮮明に記憶する。東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波、及びその後の大きな余震により発生した人的被害のうち、亡くなった方々また、行方不明の方々、一連の余震では多くの方々の命を奪った。まだまだ若輩者の私ですが強い衝撃を受け心を痛めた。しかしながら、震災時私共ユーザー様（製造業）とやっとの思いで連絡が取れ何かができるわけでもなく被害の大きかった陸前高田市へ足を運んだ。今でも鮮明に思い出す。インフラ状態も想像を超え考えられない程の状態であった。現地到着時私は更なる衝撃を受けたが、元気を与えなければならぬ私が、大切なユーザー様から「来てくれてありがとう」、その言葉が逆に元気をもらってしまった。震災数日後には生産の復活した事には新たな感動を覚えた。日本の底力を改めて世界へ示すきっかけにもなったのがこの大震災ではないだろうか。東北地方・北関東地方にあった部品工場・素材工場は軒並み大きな被害を受け、生産が一斉にストップした。製品出荷がとまり自動車業界・IT業界多くの各業界にも、また日本だけでなく世界でも大きく落込みかねない事態となった。

私達が手放す事が出来ない携帯電話、今人気のスマートフォンには約1000点の部品が使われている。そのうち4割は日本製と言われている。世界市場を圧巻しているiPhone・サムスン電子も日本の先端素材がなければ生産できないのは、日本の物造りの底力ともいえる。スマートフォンのサプライチェーンが広がる中、スマートフォン自体に搭載されない分野でも支えているのが、外装削り出しに活躍する工作機械・フレームへねじ穴を開ける切削工具のドリル（タップ）・色鮮やかな映像を鮮明に映し出す液晶パネル製造使う液晶露光装置は日本国内メーカーで90%のシェアをもつ。3種ともほぼ日本国内製造製品だ。スマートフォンとの出会いで世界的なサプライヤーに急成長もある。多くの日本企業が手掛けていることは事実だ。

製造業が中国・東南アジア・また巨大市場へ発展していくインド、そして北米・メキシコへの海外生産移管は、日本国内製造において今まで以上に私自身も脅威を感じ、顧客ニーズに臨機応変に対応する必要性は勿論ある。また対応をさせて頂いている。しかしながら、日本国内で生き残る為の手段としても「現場力」「技術力」「底力」という事が今回の大震災により発揮していると心から思う。日本人特有の、芯から思いやりの心を持ち続け、グローバル社会の中で私は勝ち続けていく事を心に決めている。

行事予定

西部地区新春時局講演会	1月24日(木)	大阪産業創造館
政策委員会・定例理事会	3月6日(水)	大阪産業創造館
調査広報委員会	3月13日(水)	機械工具会館
政策委員会・定例理事会	5月8日(水)	安保ホール
第44回通常総会・講演会・懇親会	6月5日(水)	八重洲富士屋ホテル
政策委員会・定例理事会	7月10日(水)	機械工具会館

展示会

nano tech 2013 第12回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議	1月30日(水)~2月1日(金)	東京ビッグサイト
テクニカルショウヨコハマ 2013 第34回工業技術見本市	2月6日(水)~8日(金)	パシフィコ横浜展示ホール
第17回おおた工業フェア	2月7日(木)~9日(土)	大田区産業プラザ(Pio)
微細・精密加工技術展 2013	4月11日(木)~12日(金)	大田区産業プラザ(Pio)
INTERMOLD 2013 第24回金型加工技術展	4月17日(水)~20日(土)	東京ビッグサイト
レーザー EXPO 2013	4月24日(水)~26日(金)	パシフィコ横浜
MEX金沢 2013 (第51回機械工業見本市金沢)	5月16日(木)~18日(土)	石川県産業展示館
微細・精密加工技術展 2013	5月29日(水)~31日(金)	インテックス大阪
難加工技術展 2013	7月3日(水)~5日(金)	ポートメッセ名古屋
プレス・板金・フォーミング展 MF-Tokyo 2013	7月24日(水)~27日(土)	東京ビッグサイト
EMO HANNOVER 欧州国際工作機械見本市	9月16日(月)~21日(土)	Hannover 国際見本市会場
測定計測展 Measuring Technology Expo 2013	9月25日(水)~27日(金)	東京ビッグサイト
MECT 2013 メカトロテックジャパン	10月23日(水)~26日(土)	ポートメッセなごや
2013 国際ロボット展	11月6日(水)~9日(土)	東京ビッグサイト

編集後記

- 新年おめでとうございます。会員の皆様は清々しい気持ちで新年を迎えられたと思います。皆様にとって健やかで幸多い年になりますよう祈念申し上げます。
- おめでたいお話をひとつ。昨年末、大学同期の忘年会時に同級生から結婚の報告を受けてびっくり。彼は一部上場の某重電機メーカーに勤務し工場長など重職を歴任しながら、独身のまますと母親の面倒をみてきましたが数年前に母親は息子に感謝しつつ亡くなりました。定年後は失った青春を取り戻すのだと日本中を愛車で走りまわりご当地の旨いものを堪能するという生活をしていました。料理上手の彼の特製お雑煮を食べに毎年正月には仲間と訪問しお手製の料理をつつきながら一年間の旅行報告を聞くのを楽しみにしていました。さて前期高齢者となった彼が嫁さんを娶ったことはもちろんめでたいのですが、結婚に至ったいきさつがちょっといい話です。25年前40歳になっても独身である彼を心配して母親が親戚に彼の見合い写真を配りました。そして四半世紀が経過し宮城県在の親戚が昨年の東日本大震災で罹災し家の片づけをしたら25年前に預かった見合い写真が出てきました。その残っている写真の中で当時は歳の差からマッチングしなかった40歳の彼と25歳の女性の写真が目にとまりました。聞けば双方未だ独身と聞きお見合いを勧めました。しかも当時の見合い写真と履歴書のままでお見合いをしたのですが、双方意気投合しめでたくも昨年8月にゴールインしたそうです。運命の出会いですね。
- 日工会発表の11月受注確報は25カ月振りに900億円割れの881.7億円と本年最低の受注額となりました。本年11月までの受注総額は1兆1,283億円ですのでここ2カ月前期比減少傾向ありますが、JIMTOF効果をプラス要因として目標の1兆2,000億円をクリア出来たかと思われます。

「日工販ニュース」 Vol.4—2013

平成25年1月15日発行

発行	日本工作機械販売協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階 電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者	専務理事 宇佐美 浩
編集	日工販調査広報委員会 委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成25年 1月1日現在

正会員(全69社)

【東部地区(32社)】

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠マシンテクノス(株)
 今井機械工業(株)
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株)カネコ・コーポレーション
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興 會
 (株) 三 機 商 會
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 双日マシナリー(株)
 帝通エンヂニヤリング(株)
 (株) テ ヅ カ タ
 (株) ト ミ タ
 (株) 豊 通 マ シ ナ リ ー
 (株) N a i T O
 (株) ナ チ 常 盤
 日鋼商事(株)
 丸紅マシンツールズ(株)
 三井物産マシンテック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 コアサ商事(株)
 米沢工機(株)

【中部地区(21社)】

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 力ト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコー商事(株)
 三立興産(株)
 下野機械(株)
 (株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 大 和 商 會

(株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 會
 浜 松 貿 易 (株)
 (株) 不 二
 山 下 機 械 (株)
 ワ シ ノ 商 事 (株)

【西部地区(16社)】

赤 澤 機 械 (株)
 伊 吹 産 業 (株)
 植 田 機 械 (株)
 (株) お じ ま
 関 西 機 械 (株)
 京 華 産 業 (株)
 五 誠 機 械 産 業 (株)
 桜 井 機 械 (株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大 幸 産 業 (株)
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 西 川 産 業 (株)
 日 本 産 商 (株)
 マ ル カ キ カ イ
 宮 脇 機 械 プ ラ ン ト (株)
 (株) 山 善

賛助会員(全73社)

【製造業(60社)】

(株)アマダマシンツール
 育 良 精 機 (株)
 (株) エ グ ロ
 エヌティーツール(株)
 (株)MSTコーポレーション
 エ ン シ ュ ウ (株)
 オ ー エ ス ジ ー (株)
 オ ー ク マ (株)
 大 阪 機 工 (株)
 (株)岡本工作機械製作所
 (株)カワイエンジニアリング
 (株)神崎高級工機製作所
 (株)北川鉄工所
 キ タ ム ラ 機 械 (株)
 (株)北村製作所
 キ ャ ム タ ス (株)
 黒 田 精 工 (株)
 コ マ ツ N T C (株)
 サ ン ド ビ ッ ク (株)
 (株) C & G シ ス テ ム ズ
 (株) ジ ェ イ テ ク ト
 (株)シギヤ精機製作所
 シチズンマシナリーミヤノ(株)

新 日 本 工 機 (株)
 住友電工ハードメタル(株)
 セイコーインスツル(株)
 (株) ソ デ ィ ッ ク
 大 昭 和 精 機 (株)
 (株) 太 陽 工 機
 高 松 機 械 工 業 (株)
 (株) 滝 澤 鉄 工 所
 (株) ツ ガ ミ
 津 田 駒 工 業 (株)
 (株) 東 京 精 密
 東 芝 機 械 (株)
 東 洋 精 機 工 業 (株)
 (株)ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株)日研工作所
 (株)日進製作所
 ハイデンハイン(株)
 浜 井 産 業 (株)
 日 立 ツ ー ル (株)
 フ ァ ナ ッ ク (株)
 富 士 機 械 製 造 (株)
 プ ラ ザ ー 工 業 (株)
 豊 和 工 業 (株)
 牧野フライス精機(株)
 (株)牧野フライス製作所
 (株)松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ッ ト ヨ
 三 菱 重 工 業 (株)
 三 菱 電 機 (株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株)森精機製作所
 安 田 工 業 (株)
 ヤ マ ザ キ マ ザ ッ ク (株)
 吉 川 鐵 工 (株)

【リース業(13社)】

I B J L 東 芝 リ ー ス (株)
 共 友 リ ー ス (株)
 近畿総合リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 J A 三 井 リ ー ス (株)
 東 銀 リ ー ス (株)
 日 本 G E (株)
 日立キャピタル(株)
 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス(株)
 三井住友ファイナンス&リース(株)
 三菱電機クレジット(株)
 三菱 U F J リ ー ス (株)